

# ネットワークへの不正侵入 通信速度保ち検知

テルミナス・テクノロジー

業内ネットワークの間に設置。ファイアウォールをすり抜けて企業内ネットワークに侵入する前に検知する。

大量データの送信など不正アクセスのパターンや、不正侵入を起こす疑いのあるIPアドレス

(インターネット上の住所)などを検出するよう  
に、あらかじめ「ルール」を登録する。ルールを逸脱するアクセスなどを発見した場合は管理用パソコンに通知し、ネットワーク上に流れている不正パケットを止めることができる。

装置には独自に設計した半導体チップを組み込

んだ。ルールと合致する不正パケットがないか検索する場合、一度目の検索時に作成したデータを二度目の検索にも活用。効率よく検索できるため、通信速度の損失が少ないという。

ソフトウェアで不正アクセスなどを検出する場合は処理に時間がかかるなどの問題があった。特に社内ネットワークなどの大容量回線では、ソフトウェアですばやく検索するのは難しく、処理速度の高い半導体チップを使った同社製品が有利とみている。価格は約七十万円。初年度で百五十台の売り上げを見込む。

半導体ベンチャーのテルミナス・テクノロジー(東京・中央、中島裕代表)は毎秒一ギガ(ギガは十億)程度の企業内ネットワーク向けに通信速度をほとんど落とさず、不正アクセスを検知できるシステムを開発した。半導体チップによる独自の高速検索技術で、検知装置をネットワーク上に置くことによる速度損失を1%程度に抑えた。

不正アクセス検査システム「パケットバルブ」はファイアウォールと企